

## Ⅱ 初期成長の優れたコンテナ苗生産技術及び植栽実証試験

(実施期間：平成27年度～令和元年度 予算区分：県単 担当：富森加耶子)

### 1 目的

コンテナ苗は培地つきのため、従来の裸苗と比較して植栽後の活着や成長が良いとされ、各地で導入が進んでいる。本県でも再造林でのコンテナ苗の活用が期待されており、コンテナ苗の生産技術の確立が求められている。本年度は、植栽後3年経過した裸苗とコンテナ苗の初期成長を評価するとともに、より低コストなコンテナ苗生産技術について検討した。

### 2 実施概要

#### (1) 方法

①平成28年に植栽したスギのコンテナ苗2種(根鉢容積150cc、300cc)と裸苗(写真)の樹高、地際直径を調査した。

②通常のコンテナ苗生産では、育苗箱で発根させた苗木をコンテナ容器へ移植するのに対し、コンテナ容器へ直接さし木する「直挿しコンテナ苗」の普及を図るため、生産経費について検証した。

#### (2) 結果

①年間の樹高成長量はコンテナ苗150ccで植栽3年後に小さくなる傾向が見られたが、裸苗やコンテナ苗300ccの樹高成長量との間に有意な差はなかった(図1)。直径成長量は、植栽2年後まではコンテナ苗300ccと比較して150cc及び裸苗で小さかったものの、植栽3年後はいずれの苗種も同等の成長量であった(図2)。よって、植栽後3年後の初期成長はコンテナ苗150cc、300ccいずれも裸苗と遜色ないと考えられる。

②直挿しコンテナ苗は、育苗1年目の容器や用土をそのまま使用し、通常のコンテナ苗における2年目の容器への移植作業がないため、育苗2年目の経費が大幅に削減された(表)。今回の試算で直挿しコンテナ苗の1本あたりの生産経費は、通常のコンテナ苗と比較して約4割削減が可能と考えられる。

### 3 結果の図表と研究の様子



写真 左からコンテナ苗150cc、同300cc、裸苗

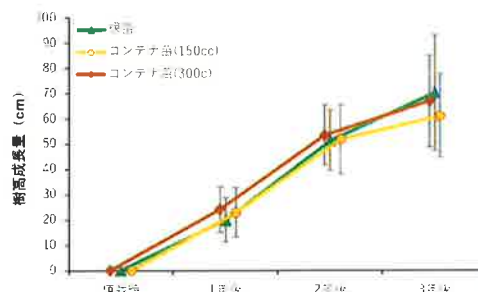


図1 樹高成長量の変化

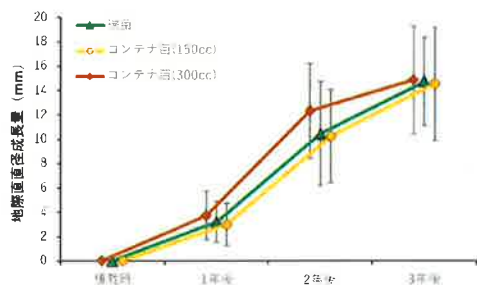


図2 地際直径成長量の変化

表 苗木1本あたりの生産経費

		通常の コンテナ苗	直挿し コンテナ苗
育苗1年目	資材費	31.4	68.0
	労務費	7.7	7.7
育苗2年目	資材費	84.9	2.1
	労務費	18.6	8.0
1本あたり経費		142.6	85.8